

衛生昆虫の解説—4 [補足]

世界中の嫌われもの

ハエ・ゴキブリ

いま い そう いち
今 井 壯 一
Soichi IMAI

本誌 57 巻 8 号 (2011) に「ハエ・ゴキブリ」の記事を掲載したところ、読者の方からご意見ご質問をいただいた。ご指摘に従い原稿を読み直してみると、ニクバエの分類について不適切な記述や、字数制限のために省略した文章に誤解を招く個所があることに気がついた。そこで、本誌編集部において貴重な紙面を割いて補足を掲載させていただくことにした。

関係各位にお詫びとお礼を申し上げますとともに本稿を読んでいただいた読者の方々のさらなる参考にしていただければ幸いである。

- (1) P.243 : センチニクバエおよびナミニクバエの学名について、本稿ではセンチニクバエの学名を *Sarcophaga peregrina*、ナミニクバエの学名を *Parasarcophaga similis* としたが、両種の属名を *Sarcophaga* として、ナミニクバエは *Parasarcophaga* 亜属とし、センチニクバエは *Boettcherisca* 亜属とするのが適当であり、訂正させていただきたい。
- (2) P.243 図 2 : (誤) キンバエの 1 種 *Lucilia* sp. → (正) オビキンバエの 1 種 *Chrysomya* sp.
- (3) P.244 : 吸血性のノサシバエの生態について、ノサシバエ成虫は舎飼牛に較べて放牧牛に多く見られ、ほぼ常時牛体上にいて吸血するが、牛体上で静止する時は本稿にあるように、常に頭部を地表に向けているので、同時に牛体に集まるノイエバエ *Musca hervei* やクロイエバエ *Musca bezzi* とは容易に区別することができ、放牧地において牛体に集まるハエ類の構成を知る手がかりとなる。
- (4) P.245 : ヒトクイバエのヒトへの感染ルートは洗濯物ルートの他に、糞尿で汚染された乾いた砂地から経皮的に幼虫が侵入するルートもある。ヒトヒフバエは本稿にあるように、他の吸血性昆虫やダニの腹部に産卵してこれらとともに移動する便乗方式 (phoresis) によって拡散するが、吸血性節足動物が宿主を吸血する際にヒトヒフバエの卵が宿主に接触すると、温度変化を感知して直ちに幼虫が卵殻を破って脱出し、宿主の皮膚に穿入する。穿入した幼虫は宿主の皮膚に小孔を開けそこから呼吸を行って発育する。
- (5) P.246 : 偶発性ハエウジ症の原因となるクロバエ科のハエ (ヒロズキンバエ、ミドリキンバエなど) は、本稿にあるように生きているヒトや動物の解放創傷や膣、肛門、鼻腔などの天然孔に産卵し、短時間のうちに孵化した幼虫が体内に入り込んでいく。
一方、ニクバエ類は卵胎生で、これらの場所に直接 1 齢幼虫を産む。